

女子大生の和の行儀作法に関する認識度とその必要性 — 女将論の授業から見えてくる現状 —

石丸 淑子

Female College Students' Degree of Recognition and Necessity about Japanese-Style Behavior and Manners — “OKAMIRON” Classes —

Toshiko ISHIMARU

I はじめに

現代の日本社会においてともすれば忘れられがちな和の行儀作法は通常の日常生活をおくるためにはその必要性を感じることはほとんど無いが、女子大生が卒業後に職業人としてあるいは大人の日本人女性として広く国際社会に受け入れてもらいその特性を生かして活躍するためには、基本的な礼儀作法のみならず日本独特の和の行儀作法が必要になってくる。その必要性と重要性を見据えて設けた科目である女将論の授業を通じて見えてくる現状の認識とそれに対する今後の教育内容を考えることを目的とする。

II 女将論という科目

1. 科目開講の経緯及び目標

平成 19 年度に学科内のユニットとしてトラベル関連科目を開講するにあたり卒業時に観光ビジネス実務士¹⁾の資格を取得できるような科目展開を考え資格認定規定の選択科目 II 群観光ビジネス関連分野科目から他のいくつかの科目と共に開講した。資格認定を行なう全国大学実務教育協会²⁾の規定ガイドラインによる女将論の科目説明には「女将の役割にふれながら、温泉旅館の成立・歴史、特に温泉経営とその今日的課題について学ぶ」とあるが、加えて観光関連産業のみならずあらゆるサービス業において発揮されるべき女性

特有の感性(3気、4S等)³⁾を育成すること、立地条件としての国際観光都市である京都において、より伝統的な和の行儀作法を学ぶことの大きな意義、現代家庭生活では体験することが難しくなりつつある和の行儀作法を身に付けて社会に出ることの出来る女性になれることを目標としての授業展開を行うことの必要性から女将論という科目としてトラベルのユニットに組み込んだ。平成 22 年度からは受講生の希望者には、授業成果として就職活動にも役立てられるよう「日本の宿 おもてなし検定初級」⁴⁾への受験も推奨している。

2. 教科書の選定

開講にあたり教科書にすべき対象書籍が選定できずに、筆者自身の手作りレジュメや有名老舗旅館の女将達の体験談などを紹介するなどして授業展開を行っていたが、平成 20 年度に日本の宿おもてなし検定初級公式テキスト⁵⁾が発刊され、平成 21 年度以降今日までそれを授業の主教科書として使用している。

3. 授業展開

まず、初回導入ガイダンスとして3つの到達目標(①女将の特性を理解することで日本女性の感性を養うことができる。②女将の役割を学ぶことで具体的な立ち居振る舞いを身につけることができる。③女将の特性を理解し役割を学ぶことで訪日外国人旅客への対応法

を理解できる。)を納得してもらい下記の授業計画を説明する。

- (1) 日本旅館とホテルの相違点
- (2) 日本旅館の特色
- (3) 日本旅館における女将の役割
- (4) 女将の接客マナー⁶⁾ 術
- (5) 訪日外国人旅行の現状
- (6) 異文化コミュニケーション
- (7) 国際観光サービスにおけるノーマライゼーション⁷⁾ 対応
- (8) 学内和室を利用して和の行儀作法実技実習①廊下の歩き方、出入り口の出入りの方法、襖の開閉、室内の歩き方
- (9) 同上 ②座布団の置き方、座り方、和室での座席マナー
- (10) 同上 ③茶菓の出し方、料理の出し方、酒類の注ぎ方・受け方、座礼の方法等
- (11) 女将的外国人旅行者の対応
- (12) アジア・欧米からの外国人旅行者の具体的対応
- (13) 外国人が戸惑う日本独自の習慣
- (14) アシストサービス⁸⁾ の現状
- (15) まとめ

4. 実技体験を組み込んだ授業内容

上記授業計画の中で特筆すべきは、座学だけではなく、より実践的な和の行儀作法を修得する方法を取り入れるために学内和室施設を利用しての実践的演習授業を3回に分けて行っていることである。現代の日常生活において伝統的儀礼⁹⁾ に沿った生活を送ることが稀になり特に若い世代である女子大生にとっては、和の行儀作法を実体験する機会が非常に少なくなっている現実がある事が学内和室施設での実技体験を行う前に授業内で実施した受講生達への意識調査アンケートにもあらわれている。

5. 授業内アンケートによる意識調査

アンケートは授業内で実施、履修登録受講者26名中当日出席者16名(2年前期科目の為就活と重なり欠席者多数)が無記名にて回答(記述欄は原文のまま、解答欄に記述は任意の為項目数と一致しない)

質問項目は、以下の18項目

- (1) 今までに着物を着たことがありますか

ある ⇒ 11名 ない ⇒ 5名

- (2) ある場合はどんなとき

- ①七五三 ②祭り ③花火大会
④成人式の前撮り ⑤十三参り
⑥琴の定期演奏会 ⑦初詣 ⑧正月

- (3) 現在、居住している家屋に和室はありますか

ある ⇒ 13名 ない ⇒ 3名

- (4) ある方は、付帯設備としてあるもの

- 襖 ⇒ 12名 障子 ⇒ 9名
床の間 ⇒ 8名 掛け軸 ⇒ 6名
欄間 ⇒ 3名

- (5) 今までに茶道を習ったことがありますか

ある ⇒ 2名 ない ⇒ 14名

- (6) 今までに華道を習ったことがありますか

ある ⇒ 1名 ない ⇒ 15名

- (7) 小学校、中学校、高校で和の行儀作法を習ったことがありますか。

ある ⇒ 6名 ない ⇒ 10名

- (8) ある方は、いつ、何という科目ですか

小学校 ⇒ 1名 中学校 ⇒ 1名
高校 ⇒ 4名

科目名 → ①茶道 ②家庭基礎 ③礼法

- (9) あなたは日本人としての和の行儀作法が身につけていると思いますか。

ついている ⇒ 4名

- 理由 → ①茶道を習っていたので
②武道をしていたので
③日本人だから
④礼儀は必要だから

ついているとは思わない ⇒ 12名

- 理由 → ①なかなか実践することが難しいから
②そういった和の場面に出向くことがあまり無いから
③普段あまり意識していないから
④授業を受けていて知らないことだらけだったから
⑤女将論で習ったことも知らなかったのもまだまだ身にはついてはいないと思う
⑥ある程度はついているつもりでも間違っていそうだから

- ⑦和とか作法とか今までに気にしたことが無いから
- ⑧習慣が無い
- (10) 今までに和の行儀作法の知識が無くて困ったことがありますか
- ある ⇒ 3名
 どんな場合 → ①法事 ②座布団の座り方
 ない ⇒ 13名
- (11) 自分の周りに和の行儀作法をきちんと修得していると思われるひとはいますか
- いる ⇒ 8名
 誰 → ①祖父母 ②祖母 ③母 ④両親
 ⑤茶道の師匠
 いない ⇒ 8名
- (12) 家庭の中で和の行儀作法に関して注意されることはありますか
- ある ⇒ 11名
 誰に → ①祖母 ②曾祖母 ③両親 ④母
 どんなことで → ①畳の縁を踏まない
 ②箸の使い方
 ③食事のマナー
 ④座布団の向き
 ⑤お茶の入れ方
 ⑥礼儀作法
 ない ⇒ 5名
- (13) 今後、貴女が生きていく上で和の行儀作法は必要だと思いますか
- 思う ⇒ 16名
 理由 → ①常識的に必要
 ②日本の文化、礼儀作法をこれから伝えていかなければならないと思うから
 ③社会に出てからそういうマナーを知っておかなければ沢山あると思うから
 ④日本に住んでいる限り和のマナーは必要だと思うから
 ⑤接待などで必要だと思う
 ⑥社会人となるうえで和の作法を知らないで恥であると思う
 ⑦できる女性になるため
 ⑧日本にいる限り必要な時がで
- てくると思うから
- ⑨実際、法事の時に困ったし和の行儀作法を身につけて損は無いと思うから
- ⑩ある程度の行儀作法が出来ないと社会に出て、恥ずかしい思いをするから
- ⑪日本人として和の心得だと思うから
- ⑫日本人だから
- ⑬礼儀は大切
- ⑭日本の心だから
- ⑮日本人女性として
- 思わない ⇒ 0名
- (14) 大学教育の中で和の行儀作法は教えるべきだと思いますか
- 思う ⇒ 16名
 理由 → ①大学だけでなく小さいころから
 ②社会に出た時に生かせることが出てくるから
 ③何も知らないのと少しでも知っているのでは周りの目も違ってくると思うから
 ④他に教えてもらう人が少ないから
 ⑤社会に出る前に最低限の和の行儀作法は必要だと思うから
 ⑥日本人として和の行儀作法は知っておくべきだと思うから
 ⑦知らない人が多いと思うので勉強になる
 ⑧日本にいる限り必要な時が出てくると思うから
 ⑨社会人になって恥をかくより良いから
 ⑩今の子は和を意識して生活するってことがあんまり無いからそういう経験を1回はした方が良いと思うから
 ⑪大人に成って行くにつれての一環だと思うから
 ⑫あまり学べる機会が無いから

- ⑬礼儀はどこに行っても必要です
- ⑭社会に出る前だから
- ⑮社会人に成るに向けて最低の知識は必要だと思う

(15) 今後、後輩達に和の行儀作法を修得してほしいと思いますか

思う ⇒ 15名

- 理由 →
- ①実践することで身に付くと思うので
 - ②恥をかって欲しくないから
 - ③将来役にたつことだから
 - ④日本にいるからには絶対に使うことがあるから
 - ⑤実際にアルバイトなどで身に付けた作法が役にたった
 - ⑥女性として行儀作法の基本位は出来た方が良くと思う
 - ⑦日本にいる限り必要な時が出てくると思うから
 - ⑧社会人になって恥をかくより良いから
 - ⑨必要だから
 - ⑩折角、授業があるから
 - ⑪礼儀はどこに行っても役にたつからです
 - ⑫社会人になるに向けて最低限の知識は必要だと思うから

思わない ⇒ 1名

- 理由 → 修得したいと思う子だけやれば良いと思う

(16) この科目（女将論）を受講しようと思った理由は何ですか

- ①行儀作法を知りたいと思ったので
- ②おもてなしの心をもっと深く学びたいと思ったので
- ③おもてなし検定を取得したかったのとマナーを身につけたいと思った
- ④和の行儀作法を身に付けたかったから
- ⑤おもてなし検定を取得したかったから
- ⑥あいまいである和の行儀作法をしっかりと身に付けることでこれからの生活に役立てたいと思ったから

⑦女子力を上げるため

- ⑧説明を聞きおもてなし検定に興味を持ったため
- ⑨ブライダル関連で就職しようと思っていたので和婚¹⁰⁾の時に役に立つかもしれないと考えたから、又、行儀作法を身に付けていたら法事などで困ることも無いと考えたから
- ⑩おもてなしを知りたかったからです
- ⑪おもてなし検定やこれから役に立つ内容を学べると思ったから
- ⑫先生のお話を聞いていいなあーと思い受講決心しました
- ⑬おもしろそうだったと思ったので
- ⑭他の授業と比較して
- ⑮興味があったから、おもてなしは将来的にも役に立つし自分の行いを見直すことも出来ると思ったから
- ⑯日本人女性として、しなやかな動きを学びたかったため

(17) 受講する前と受講後では科目内容に差異がありますか

ある ⇒ 3名

- 理由 →
- ①想像するのと実践するのでは大きな違いがあったから
 - ②わからなかったことが自分に身についた

ない ⇒ 13名

(18) 「おもてなし検定」は受験しますか

受験する ⇒ 13名

- 理由 →
- ①女将論を受けたので受験しようと思った
 - ②就職活動に活かしたいと思ったので
 - ③めずらしい検定だし知識を身に付けたかったから
 - ④学んだことを結果として残したいから
 - ⑤資格が欲しいから
 - ⑥「おもてなし」もできるということを資格として証明したいから
 - ⑦「おもてなし」こそは女性ら

- しい検定だと思ったからです
- ⑧説明を聞き「おもてなし検定」に興味を持ったからです
- ⑨あまり有名ではないけど、「おもてなし」を学んだ証明になるから
- ⑩カッコ良いから
- ⑪「おもてなし検定」はどこに行っても役にたつからです
- ⑫やっぱりそういう資格が欲しいから
- ⑬学習してきた証として

受験しない ⇒ 3名

結果をみると、やはり日々の生活の中には家族ともども日本人としての行動意識があり今後の社会生活においても日本独特の和の行儀作法の必要性、重要性への認識があるということがはっきりとわかる。アンケート回答の結果に、更なる口頭インタビューによる結果を加え各項目別に検証してみると(1)(2)の和服に関しては、七五三や初詣等の伝統儀礼時には本人というよりは家族の意向としての着用、祭りや花火見物時などの浴衣着用は本人の主体で行われているようであるが、特に女子大生として卒業式時や成人式での振袖着用には家族、本人両者の着用希望が一致しているようである。(3)(4)の居住環境に関しては和室はあるが、床の間や欄間がその半数に付帯していないということは独立した和室という事では無く現代様式に良く見られるリビングやダイニングの一部に併設される畳敷きの一角を和室としている生活スタイルが多いという理由であろう。

(4)(5)の日本伝統文化の中で女性の習い事として日本独特の和の作法を修得するための習い事の一つであるが大学の時点で経験者が僅か3名しかいないということは今後新たに始める可能性も含め非常に少ないということがわかる。

(7)(8)の過去の学校という教育現場での体験では、約3人に1人が習ったと答え高校時の科目名として家庭基礎や礼法という科目があることは教育現場としても卒業後の必要性を考慮していると思われる。

(9)の質問に関しては、やはり習い事や過去の授業科目や部活として茶道や華道、武道を経験している学生だけがついていると答えていることから身につけ

るためにはそういった体験が必要であるということがわかる。

(10)知識の必要性の有無に関しては、法事などでの座布団の座り方と約3名だけがあると答えているが、この数字は大人の女性として臨まなければならない場面に遭遇する機会がまだ少ないという表れであろう。

(11)(12)の項目では、和の行儀作法の修得には家庭生活における日々の暮らしの中での生活習慣の重要性がはっきりと示されている。特に家族の中では祖父母の存在が大変大きな意味を持っているが、近年の家族構成の形から祖父母との同居が少なくなっていることが必要な場面での確かな指導や注意を受け取ることの出来る機会の減少が(9)の身についていないという回答にも関連しているのであろう。

(13)では、今後自身が社会で生活するうえでの和の行儀作法は必要かとの問いに対し全員が必要であると答えている。理由は、やはり社会生活では絶対的に必要であるという認識であるが、注目すべきは7名の学生がその回答に日本という言葉を使用していることである。社会生活での必要性は勿論であるが日本に住む日本人であるという意識の中に和の行儀作法の修得の重要性が大きな意味を持ち、そこには通常は感じることの少ない自身の生まれ育った日本という国へのナショナリズム的思考があるのではないかと思われる。

(14)で問うたのは和の行儀作法は、大学で教えるべきかという内容であったが全員がそうあるべきと答えている。答えの中で注目すべきは、やはりほとんどの学生がそれまでに教えてもらう機会が無いという事と社会生活を始める前には知っておくべきだと強く感じているという事である。ただ、同じような内容である(15)の後輩達に修得してほしいかという質問にはただ一人があくまでも自身で学びたいと思うならとあるが、同じ学生が上記(14)で、大学での教育は必要であると答えているのが興味深い。

(16)は、この科目への受講理由である。ガイダンスや学生に配布する授業計画書などで授業内容を説明しサービス業の宿泊関連職業のみならずあらゆる場面における和の行儀作法の修得を目的としているという事を理解し納得しての受講理由がきちんと書かれているが、ただ興味があるや知りたいという単純な知的

興味からの受講理由も一部見受けられる。

(17) は、受講前と受講後の授業内容の差異を聞いている。13名がほぼイメージどおりであると答えているが、3名は実際に受講してみて差異があると答えているがその主な理由は和室施設での実技体験での感想と思われ、自身が今まで知識として知らなかったことに対する差異であろう。

(18) は、授業外にあくまでも任意で受験推奨している「おもてなし検定」の受験意思を聞いている。13名が受験すると答えているがその主な理由はやはり昨今の資格重視の就活に役立てるために資格の一つとして取得したいということであるが、他の理由として授業を受けた証として、更に学んだ事の集大成として受験したいという答えがあることが大学教育として実技体験を組み込んだ科目として開講している意義があると結論づけられる。

Ⅲ 和の行儀作法とは

1. 歴史的背景

わが国に於いての行儀作法の始まりの歴史は約1,400年前に遡ると言われている。日本初の成文法である「十七条憲法」¹¹⁾は聖徳太子¹²⁾が主に官人の為に規範となるべき道義や心構えとして作成したが、仏教の考えをもとにした条文には和という言葉や礼儀という言葉が書かれておりその後、今日に至るまでの和の行儀作法の根本つまりルーツとなっている。訳文大意によると第一条に「仲良くすることが大切である。上の者と下の者が仲良く話し合えば成就しないことはない」とあり、第二条には「仏と法と僧を深く尊敬し、尊び、礼をつくしなさい」とあり特に十七条の条文の中でもこの二つの条文が和の礼儀作法にとって重要な条文である。第一条の原文の一部「和を以って貴しとなす」を冒頭に置いた理由を近藤珠實氏は著書「和のふるまい」で「和こそ日本人にとって最も大切な原則だと判断したからでしょう。人間同士の和の大切さを強調したその教えは以降、連綿と続いていくこととなります。」と、又「やまとことばでは和とは集落、人間のつながりを表すが当時の日本人が持っていた自国の理念「協調の精神に」に近い意を含んだ「和」の字が用いられた」とも述べている。その後、公家から武家へと時代と共にその礼儀作法も形式は変わっていつ

たが、根本にあるこの和の精神だけは累々と受け継がれ、江戸時代に入り武士以外の全ての社会層にも更に細かい決め事としてその形を残し、特に多くの人口が集い集団生活を送る中心都市江戸では互いを、おもいやる遠慮の文化が更に重要視されそのいくつかの例が「江戸しぐさ」¹³⁾として今日の礼儀作法にも残っている。その後の行儀作法の歴史について横山駿也氏が著書「行儀作法の教科書」の中で「やがて明治時代に入ると行儀作法は日本各地、各種の流儀に加え西洋からの様式の広がりにより混沌とした状態になった。この状況を危惧した当時の文部省がさまざまな作法形態があることを認めつつ、基本的な事柄についてのみその形を整えようと、明治末期、作法の全国調査をし、識者にこれを纏めさせ、「小学校作法教授要項」や「中学校作法教授要項」が生み出されることになった。これをもとに、『小学作法』『公民作法』などの教科書や書籍も作られることになり、小学校から授業で作法が教えられることになった。」と書いている。ただ、今日までそれが続いている訳ではなく戦後の教育の中ではそういった科目は全て廃止され、僅かに道徳教育という形でのみその痕跡をとどめてはいるが、日本人の持つ和の精神をもとにした行儀作法の教育はなされていない現状が先に述べた受講生に対する意識調査にも表れている。

2. 和的特色

藤野紘氏の著書「日本人の美しい和のふるまい」から行儀作法の中で特に和的特色を持つ作法とそのいわれをいくつかあげてみると

「(1) 左側通行 → もともと殿中の廊下を帯刀している武士が歩く作法で、右利きの人が長い日本刀を素早く抜くために左の腰に下げたので右側通行ですれ違くと相手に近い側に鞘があるので体の後ろに伸びた鎧の部分がぶつかってしまう。左側通行であれば身を守るうえで刀を抜きやすく反撃しやすいという習慣から生まれ、表の道でも両方向から大名行列が進んできて出くわした際は、身分の低い方が左側に寄って止まり、相手の大名が通り過ぎるまで待つようになった。そこから個人で歩いているときでも同様に一方が止まって相手に先を譲るようになった。

(2) あいさつ → 古来、日本には言霊思想¹⁴⁾があり、言葉には不思議な力が宿っているとされていた。

そして、口から言葉を発するとその通りの結果になると信じられていた。

(3) 靴の揃え方 → 靴は体の向きを変えずに、入り口から入った方向のまま脱ぎ、上がってから体を斜め向きにして膝をつき靴を出船の形に揃える。これはそのお宅の人が後で向きを変えなくて良いようにという相手への心配りと同様に自分の身を守るという意味合いがある。これは茶道の礼儀作法として定まりその後一般に広まった。茶室の狭い入り口で履物を脱いだままにしておけば出る段に手間取る。茶道の発展に大きく寄与した武士階級は茶室で襲われた場合に素早く逃げる為に履物を履きやすい状態にしておく必要があった。

(4) 座布団の作法 → 和の伝統的な行儀作法の中には相手に対して「敵愾心がなく信用している」と表現するふるまいがたくさんある。他人のお宅を訪問して座布団を外すという作法は、かつては縁の下に潜む敵に畳の下から刀で突かれるおそれがあったので、座布団にはそのような場合に足を保護するという役目があった。その為、足を防御する座布団を外すという行為には「あなたを信用しています」というメッセージが込められている。家の主に対してへりくだるという姿勢もあるが、無防備な状態にあえて身を置くことも意味し互いに下心がないと確認し合う。

(5) 和室での上座・下座 → 和室においては、床の間を中心として考える。床の間を背にした席が一番の上座。四角い座卓の四辺に4人で座るなら、2番目は床の間のある側の側面、3番目は床脇棚のある側の側面、そして4番目が入り口を背にした席となる。床の間の前が上座になるのは、もともと礼拝の場所であったため、僧家において仏画を掛け、花や燭台、香炉を飾って拝んでいたがその後、掛け軸を飾って鑑賞するようになり、安土桃山時代から江戸時代初期の頃に、今も見られるような幅一間奥行き三尺ほどの床の間の形態になっていった。

(6) 敷居を踏まない → 敷居の木材がささくれだっていたりすると足の裏を傷つきかねない。特に武士の時代には床下に敵が潜み、敷居と接する畳の間から刀を突きだされる危険も考えられるそんな危険を避けるためにも敷居を踏むことを戒めた。いわば敷居を踏む人の安全を考えた。

(7) 畳のへりを踏まない → 誕生当初薄い敷物

だった畳は平安時代になると今日の畳の形に近い厚さになったが、部屋全体に敷き詰められたわけではなく、貴族が敷物として特定の座る場所で利用し、へりは身分を表す文様で囲むようになった。やがて鎌倉時代終わりから室町時代にかけて書院作りが盛んになり部屋一面に畳が敷かれたが、へりに家の格を表す文様をあしらう習慣は江戸時代まで引き継がれた。従って、そのへりを踏むことは先祖に対しても失礼にあたることとされた。更に畳一畳という面積が一人分の生活テリトリーとしての理解が進み自分以外の領域を侵さないためにもその境界であるへりを踏むのは失礼だという考え方であった。」

3. 必要性に対する認識度

社会生活において和の行儀作法の必要性に対する認識度は将来的にその必要性を考えて幼児期から茶道、華道、武道などを習い事として体験させようとする数字割合で判断することが出来る。下表は、Web サイト「趣味と習い事の情報バンク」に記載されている年代別子供の為の習い事である。子どもに習わせたいおけいこ、乳幼児、小学生、中学生・高校生以上の実際の習い事ランキングのいずれの10位内にも茶道、華道は入っていない。習わせたい7位に空手、実際の習い事では小学生低学年で7位、高学年で6位、中学生で7位、高校生以上で5位と7位（内容の違い）に武道が入っているが、茶道、華道は全く入っていない。書道は全てに入っているが和の行儀作法の修得目的とは考えられない。

子供のための習い事
乳児・幼児の習い事人気ランキング
【趣味・習い事 情報バンク】

乳児		幼児	
1位	スイミング	1位	英会話、英語教室
2位	英会話、英語教室	2位	スイミング
3位	幼児教室	3位	体操教室、 スポーツクラブ
4位	音楽教室	4位	ピアノ、 エレクトーン等
5位	体操教室、 スポーツクラブ	5位	幼児教室
6位	その他	6位	音楽教室
		7位	バレエ、ダンス
		8位	書道、習字
		9位	絵画教室
		10位	その他

(<http://www.kosodate-map.jp/ranking.html> 参照)

子供のための習い事
小学生の習い事人気ランキング
【趣味・習い事 情報バンク】

小学校低学年		小学校高学年	
1位	スイミング	1位	ピアノ、エレクトーン等
2位	ピアノ、エレクトーン等	2位	公文、学習塾
3位	英会話、英語教室	3位	スイミング
4位	書道、習字	4位	英会話、英語教室
5位	バレエ、ダンス	5位	書道、習字
6位	野球、サッカー等のスポーツ	6位	武道
7位	武道	7位	体操教室、スポーツクラブ
8位	体操教室、スポーツクラブ	8位	野球、サッカー等のスポーツ
9位	公文、学習塾	9位	バレエ、ダンス
10位	その他	10位	その他

(<http://www.kosodate-map.jp/ranking.html> 参照)

子供のための習い事
中学生・高校生以上の習い事人気ランキング
【趣味・習い事 情報バンク】

中学生		高校生以上	
1位	学習塾	1位	学習塾
2位	ピアノ、エレクトーン等	2位	ピアノ、エレクトーン等
3位	英会話、英語教室	3位	英会話、英語教室
4位	書道、習字	4位	書道、習字
5位	スイミング	5位	武道
6位	体操教室、スポーツクラブ	6位	バレエ、ダンス
7位	武道	7位	武道
8位	音楽教室	8位	音楽教室
9位	バレエ、ダンス	9位	絵画教室
10位	その他	10位	その他

(<http://www.kosodate-map.jp/ranking.html> 参照)

大人の女性の場合は2010年度にRECRUIT社が全国20～34歳の働く女性対象に行った、今後やってみたい習い事と、この1年間に経験した習い事ベストランキング(下表)を見ると、ともに10位内ではなく茶道が12位と15位、生け花を華道とすると27位と21位という結果である。

この1年間に経験した習い事
ベスト30 (N=519/複数回答)

順位			この1年間に経験した習い事	回答率(%)			ポイント差	
10年	09年	08年		10年	09年	08年	10年-09年	10年-08年
1	1	1	英語	20.4	17.7	21.2	2.7	▲0.8
2	3	2	ヨガ・ピラティス	16.0	17.3	17.5	▲1.3	▲1.5
3	2	3	フィットネスクラブ	15.0	17.5	16.0	▲2.5	▲1.0
4	4	4	家庭料理	9.4	11.4	15.4	▲2.0	▲6.0
5	5	5	パン	7.7	9.6	7.9	▲1.9	▲0.2
6	6	8	簿記	7.1	7.9	6.4	▲0.8	0.7
7	8	10	ピアノ	6.4	5.8	5.6	0.6	0.8
8	6	6	お菓子	5.8	7.9	6.9	▲2.1	▲1.1
9	29	16	ゴルフ	5.6	1.7	3.3	3.9	2.3
10	12	7	ワード・エクセル	4.8	3.7	6.7	1.1	▲1.9
10	15	11	着付け	4.8	3.1	4.6	1.7	0.2
12	12	28	フラワーアレンジメント	4.4	3.7	1.7	0.7	2.7
12	9	13	テニス	4.4	5.2	3.9	▲0.8	0.5
14	17	18	ペン字	4.2	2.9	2.9	1.3	1.3
15	17	12	茶道(抹茶)	3.9	2.9	4.0	1.0	▲0.1
15	10	13	書道	3.9	4.4	3.9	▲0.5	0.0
17	14	9	エアロビクス・ボクササイズ	3.3	3.3	5.8	0.0	▲2.5
18	10	15	医療(看護・医療事務など)	3.1	4.4	3.5	▲1.3	▲0.4
19	20	19	アロマセラピー	2.9	2.7	2.7	0.2	0.2
19	24	36	フラダンス	2.9	2.1	1.2	0.8	1.7
21	15	16	生け花	2.7	3.1	3.3	▲0.4	▲0.6
22	21	27	ファイナンシャル・プランナー	2.3	2.3	1.9	0.0	0.4
23	38	19	韓国語	2.1	1.0	2.7	1.1	▲0.6
23	38	41	ヴォーカル・カラオケ	2.1	1.0	1.0	1.1	1.1
23	28	57	ブリザーブドフラワー	2.1	1.9	0.6	0.2	1.5
26	21	31	フランス語	1.9	2.3	1.5	▲0.4	0.4
26	17	22	中国語	1.9	2.9	2.5	▲1.0	▲0.6
26	53	57	ウォーキング	1.9	0.6	0.6	1.3	1.3
29	30	24	陶芸	1.7	1.5	2.1	0.2	▲0.4
29	60	19	ダイビング	1.7	0.4	2.7	1.3	▲1.0

※習い事・学習、1回完結レッスン、短期集中講座、通信教育も含む

※「その他」の回答を除いて掲載

https://www.recruit.jp/support/inquiry_press.html 参照

今後やってみたい習い事
ベスト 30 (N=519/ 複数回答)

順位			これからやって みたい習い事	回答率 (%)			ポイント差	
10年	09年	08年		10年	09年	08年	10年 -09年	10年 -08年
1	1	1	英語	44.9	41.0	35.6	3.9	9.3
2	2	2	家庭料理	28.1	33.7	31.8	▲5.6	3.7
3	3	3	ヨガ・ピラティス	27.4	27.6	26.8	▲0.2	0.6
4	6	5	パン	20.0	19.1	17.7	0.9	2.3
5	4	6	お菓子	19.1	21.6	17.0	▲2.5	2.1
6	5	4	フィットネススク ラブ	18.9	20.2	18.1	▲1.3	0.8
7	7	8	着付け	17.9	18.7	16.2	▲0.8	1.7
8	10	9	アロマテラピー	14.8	13.9	14.8	0.9	0.0
9	11	14	書道	14.6	12.9	10.6	1.7	4.0
10	11	12	簿記	12.5	12.9	12.9	▲0.4	▲0.4
10	9	10	ピアノ	12.5	14.1	13.9	▲1.6	▲1.4
12	13	21	茶道(抹茶)	12.1	12.7	9.6	▲0.6	2.5
13	8	7	メイク	11.8	15.2	16.4	▲3.4	▲4.6
13	13	24	ペン字	11.8	12.7	8.9	▲0.9	2.9
15	16	19	カラー(コーデ ィネット、セラ ビー)	11.0	12.1	9.8	▲1.1	1.2
15	24	14	ベリーダンス	11.0	10.0	10.6	1.0	0.4
17	19	23	乗馬	10.8	11.0	9.2	▲0.2	1.6
18	16	10	フラワーアレン ジメント	10.2	12.1	13.9	▲1.9	▲3.7
19	24	24	エアロビクス・ ボクササイズ	10.0	10.0	8.9	0.0	1.1
20	20	26	写真・カメラ	9.6	10.8	8.5	▲1.2	1.1
21	20	14	お茶(紅茶、煎茶、 中国茶)	9.4	10.8	10.6	▲1.4	▲1.2
22	16	14	ネイル	9.2	12.1	10.6	▲2.9	▲1.4
23	38	47	ワイン・チーズ	9.1	7.1	5.2	2.0	3.9
23	20	19	テニス	9.1	10.8	9.8	▲1.7	▲0.7
25	23	28	ファイナンシャル ・プランナー	8.9	10.4	8.3	▲1.5	0.6
25	26	38	ゴルフ	8.9	9.8	6.9	▲0.9	2.0
27	34	28	生け花	8.7	8.7	8.3	0.0	0.4
28	36	32	中国語	8.5	8.1	7.7	0.4	0.8
29	15	22	イタリア料理	7.9	12.5	9.4	▲4.6	▲1.5
29	43	52	バレエ	7.9	6.7	4.8	1.2	3.1

※習い事・学習、1回完結レッスン、短期集中講座、通信教育も含む

※今やっているおケイコの継続希望も含む

※「その他」の回答を除いて掲載

https://www.recruit.jp/support/inquiry_press.html 参照

【2008年度 調査概要】

調査対象者：全国 20～34歳の働く女性（株式会社マクロミルのモニターにスクリーニングを行い、習い事を「1年以内にしたことがある」と回答した者に対して実施）

調査方法：インターネットアンケート調査

調査期間：2008年12月22日～23日

回収数：519名

【2009年度 調査概要】

調査対象者：全国 20～34歳の働く女性（株式会社マクロミルのモニターにスクリーニングを行い、習い事を「1年以内にしたことがある」と回答した者に対して実施）

調査方法：インターネットアンケート調査

調査期間：2009年12月22日～23日

回収数：519名

【2010年度 調査概要】

調査対象者：全国 20～34歳の働く女性（株式会社マクロミルのモニターにスクリーニングを行い、習い事を「1年以内にしたことがある」と回答した者に対して実施）

調査方法：インターネットアンケート調査

調査期間：2010年12月2日～3日

回収数：519名（あらかじめ設定した6ブロックの地域から、平成17年国勢調査の人口比率で回収）

特に和の行儀作法を修得するための習い事である茶道、華道に関する数字を更に検証してみると総務省が5年ごとに実施する社会生活基本調査生活行動に関する結果要約平成23年度版では、男女、年齢、趣味・娯楽の種類別行動者率で茶道、華道に占める割合は、総数100%中女性10歳から14歳5%、15歳から19歳7%、20歳から24歳3.4%、25歳から29歳2.9%、30歳から34歳3.2%であり、公益財団法人日本生産性本部発行のレジャー白書2011年度版によると、平成22年度余暇活動への参加実態趣味・創作部門で何かの形で余暇にお茶に関わったのは390万人3.8%、お花は420万人4.1%であり上位のパソコン7,780万人76.1%や音楽鑑賞4,700万人46.0%と比較しても非常に少ないのが顕著である。

この結果からは、日本人としての身に付けるべき和の行儀作法を修得させようという考えも自ら修得しなければならないという必要性に対する認識度も大変低いのがわかる。

4. 社会生活における必要性

和の行儀作法の必要性に対する認識度は大変低いが実際の社会生活において以下の場面で必要とされる。

- (1) 宿泊産業の中の和式旅館での接客対応、宿泊
- (2) 和の飲食店（料亭、料理屋等）での接待、会食
- (3) 冠婚葬祭（仏式、神式の仏事神事、見合い、結納、和式結婚式）
- (4) 和式建築物への訪問、居住
- (5) その他催事の対応、参加

上記以外にも日本に居住し、日本人として特に女性としての日々の社会生活の中で必要とされる場面は多い。

Ⅳ まとめ

観光業を中心とするサービス業の中で日本独特の接

遇スタイルやホスピタリティはおもてなしという言葉で、特に宿泊業であるホテル界においてその細やかな対応力は、癒しや侘び寂びの視点で高い評価を得ている和の建物施設と共に世界の関心を集めている。ザ・ペニンシュラー東京¹⁵⁾ 開業時の総支配人であったマルコム・トンプソン氏は、著書「日本が教えてくれるホスピタリティの真髄」の中で「日本を訪れる多くの西洋人は日本人のマナーのよさ、すなわち作法を目のあたりにして驚きます。お互いを尊敬しあい、譲歩し、心配りをする。法を遵守し、正直で礼儀正しい。そのような敬意と礼節を持った人間関係が構築されていることは西洋人にとって驚異以外に何ものでもありません。よく知られるところですが、日本人の精神構造を理解するキーワードに「甘え」があげられます。「甘え」とは「甘やかす、甘えさせる、寛大な愛情」を意味し、それが日本社会の潤滑油になっているという指摘がなされてきました。この「甘え」の概念に基づいた「和」—ハーモニーが1千年以上にわたる日本文化の基本であると私は思います。既に7世紀の時点で、為政者である聖徳太子が「和」を説いていることは私が申し上げるまでもありません。」と書き日本人の和の行儀作法を称賛している。「和」の意味は三省堂発行の「大辞林」によると①対立や疎外がなく集団がまとまっている状態、仲良く協力し合う気持ち②争いをやめること、仲直り③上手く調和のとれていること、釣合のとれていることとあり、角川書店発行の「大辞源」の字義では、①やわらぐ、やわらげるとあり同訓意義として、叶う、なごむ、穏やかになる、仲良くする、力を合わせる等とある。

無論「和」には「倭」という中国、朝鮮で用いられた日本の古称、日本の自称という意味として用いての和の行儀作法という日本独特の行儀作法を表すという事であるが、単に日本の自称だけでなく古来から持つ調和や協力、なごみ等の大きな意味も含んでいる。更に行儀作法の意味は、同じ「大辞林」によると立ち居振る舞いの仕方とあるので和の行儀作法という言葉の本来の意味は、仲良く協力し合い和みあうための立ち居振る舞いということが明らかである。

この和の行儀作法に基づいた日本人の特質に感嘆した外国人は、他にもいる。

上月マリア氏は著書「日本人の礼儀」の中で以下何人かを紹介している。

「大森貝塚を発見したE・S・モースはその著書「日本その日その日」の中で『驚くことには、また残念ながら自分の国アメリカで人道の名において道徳的教訓の重荷になっている善徳や品性を日本人は生まれながらに持っているらしいことである。……挙動の礼儀正しさ、他人の感情に対しての思いやりは恵まれた階級の人々ばかりでなく、最も貧しい人々も持っている特質である』

英国人外交官夫人キャサリン・サンソムは、著書「東京に暮らす」で日本人女性の入浴時の様子を『美しい体で動作も優雅な日本女性と一緒に入ることはもっとも素晴らしい体験の一つで本当の贅沢と言えます。日本人女性の動作はとても控えめでかつ優雅なので入浴自体が一つの完成された技のようです。荒っぽい動きや無駄な動きは一つもありません。すべてが見事なゆったりしていて優雅です』とある。又、近年では和の施設とホスピタリティをそっくりそのまま輸出したとして話題になった台湾北投温泉の「日勝生 加賀屋¹⁶⁾」では、和倉温泉加賀屋¹⁷⁾の超一流と言われるおもてなしの仕方とともに和の行儀作法を外国人現地スタッフにも徹底して教え込んだと言われているが、この例を見ても日本のホスピタリティ、つまり和の行儀作法が外国である台湾でも必要とされているのが顕著である。又、京都を代表する観光都市を訪れる訪日外国人旅行者は、やはり他国では体験出来ない伝統的な和のスタイルでの生活体験や対応を希望しているであろうし、誇るべき日本独特の伝統を絶やさず続けていくことが観光立国としての日本の姿勢でもある。このようにあらゆる社会生活や、私生活の場面で必要とされる和の行儀作法であるが、成長過程や日々の暮らしの中で修得しにくい現状の中で、社会へ出ていく最終段階での修得の機会として多くの受講生達に日本女性として必要とされる和の行儀作法を身に付けてもらうことを目標とする科目としての「女将論」の更なる内容充実が必要である。

注記

- 1) 観光ビジネス実務士 一般財団法人に入会する4年生大学・短期大学において規定の科目・単位を履修し必修科目・選択科目合わせて30単位以上を修得すると卒業時に協会に授与される

- 2) 全国大学実務教育協会 正式名称は「一般財団法人全国大学実務教育協会 (JAUCB)」時代の変化や社会のニーズにあわせて教育課程の研究・開発および資格認定制度の構築を行うことを目的に1973年に設立され現在24種の資格授与を行っている
- 3) 3気、4S 3気は気遣い・気働き・気配り、4SはSmile スマイルで笑顔・Secret はシークレットで何も言わずにいた方が良いことは言わないし自慢しない・Smart スマートは出しゃばらない機転を利かせる・Sense センスは服装、立ち居振る舞い、言葉遣いなどを美しくという意味でサービス業においては特に女性の方がより表現しやすいと言われている
- 4) 日本の宿 おもてなし検定初級 旅館・ホテルの接客力の向上や人材育成支援などを目的に国際観光旅館連盟、日本観光旅館連盟、全国旅館生活衛生同業組合連合会、日本観光協会、JTB 協定旅館ホテル連盟で構成された検定委員会が実施認定する業界資格、2009年に第1回が実施され今年度の第4回では受験者数2,647人合格率63.1%、他に中級・上級もあるが段階受験である
- 5) 日本の宿 おもてなし検定初級公式テキスト 上記に説明した日本の宿おもてなし検定委員会監修による検定試験要公式テキスト、2008年に初版発行され検定試験問題は主にこの中から出題される
- 6) マナー 礼儀、作法という意味で英語 Manner の語源はラテン語の Manus 手からきている
- 7) ノーマライゼーション 英語 Normalization 直訳は正常化もしくは標準化であるが、ここでは福祉用語として障害者と健常者が分け隔てなく共存できる社会こそが普通ノーマルであるという考えをもとにそういう社会を積極的に作るための活動や運動の意味である
- 8) アシストサービス 英語 Assist service で手伝うという意味から企業が行う代行サービスや補助作業の場合に使用されるがここでは障害者や高齢者、外国人に対しての本来の意味である手助けということである
- 9) 伝統的儀礼 古来より日本人が行ってきた伝統行事としての人生礼儀 (節目としての出生・七五三・成人式・結婚式・厄払い) での祝いや祈願、葬祭儀礼 (葬式・法事)、季節行事 (正月・花見・月見・春分・秋分等、祭り催事等)
- 10) 和婚 結婚式の一つの形式、スタイルで神前や仏前の挙式や披露宴、演出等の総称
- 11) 十七条憲法 604年推古天皇時代に聖徳太子が制定した十七条からなる条文、当時の貴族や官吏に道徳的規範を示した
- 12) 聖徳太子 飛鳥時代の皇族、用明天皇の第二皇子として574年に生まれ推古天皇のもと摂政として政治を行い遣隋使派遣や十七条憲法制定等で優れた手腕を発揮し仏教を熱く信仰した
- 13) 江戸しぐさ 1700年から1800年代江戸は100万人を超える世界有数の大都市であり、日本各地や外国からも種々多様な人達が集まり文化生活習慣も異なる中で争いごとの無い平和な日々を過ごすためにお互いを思いやる心構えや振る舞いで、江戸思草と書き、思いだけでなく草つまり行動も指し、例えば傘かしげ・七三の道・こぶし腰浮かせ・うかつあやまり・肩引き等があるがそのほとんどは当時の江戸商人リーダー達の行いだといわれ現代でもサービス業における対応法として教育現場で取り上げられている
- 14) 言霊思想 言葉には霊的な力が宿るという考え方
- 15) ザ・ペニンシュラー東京 1866年創業の「香港 & 上海ホテルズ」運営により2007年9月開業。外資企業運営であるが施設と共に対応にも和的特色を取り入れている
- 16) 日勝生 加賀屋 台湾の不動産開発会社日勝生活科技が80%、日本の和倉温泉加賀屋旅館が20%出資の合弁会社が台湾北投温泉に最初の日本式旅館として2010年12月に開業、加賀屋そのままの外観、施設、おもてなしをというコンセプトで業界でも話題になった
- 17) 加賀屋 石川県和倉温泉にある明治39年創業の政府登録の国際観光旅館、特に接客対応で高い評価を永年にわたり得ており今年度も第37回「プロが選ぶ日本のホテル・旅館100選」において32年連続の1位を受賞

引用及び参考文献

- 1) 公益財団法人 日本生産性本部 「レジャー白書 2011 年度版」生産性／出版公益財団法人 日本生産性本部 2011 年
- 2) 横山駿也「行儀作法の教科書」(株) 岩波新書 2012 年
- 3) 上月マリア「日本人の礼儀」あさ出版 2009 年
- 4) 藤野紘「日本人の美しい和のふるまい」(株) 河出書房新社 2007 年
- 5) 近藤珠實「和のふるまい」(株) 日本文芸社 2008 年
- 6) 陶智子「日本人の作法」(株) 平凡社 2010 年
- 7) 越川禮子「商人道江戸しぐさの知恵袋」講談社 2001 年
- 8) マルコム・トンプソン「日本が教えてくれるホスピタリティの神髄」祥伝社 2007 年
- 9) 日本の宿おもてなし検定委員会「日本の宿おもてなし検定初級公式テキスト」(株) ジェイティビー能力開発 2011 年

参考 URL

- 1) <http://blog.livedoor.jp/jakaka/archives/cat50066601.html>
- 2) <http://www.kagaya.co.jp/omotenashi/rekishi/>
- 3) https://www.recruit.jp/support/inquiry_press.html
- 4) <http://www.omotenashi-kentei.jp/test-result/passers-shokyu.htm>